

新除草・調節剤

セレクト水和剤

CMP T 除草剤

(取扱メーカー) 三井東圧化学株式会社
三 共 株 式 会 社
北 興 化 学 株 式 会 社

対象作物：タマネギ（本畑・移植）

性状・作用特性：本剤の有効成分は5-クロル-4-メチル-2-プロピオンアミドチアゾール（CMP T）50%の水和剤である。CMP Tは現在小麦及びビール麦に使用されていて麦類の生育期に処理しても、麦類には薬害がなく、雑草を選別的に枯らすことのできる除草剤である。本剤のタマネギに対する試験は昭和43年、46年に実施され実継実：寒地で生育期に製品600～800g/10a全面雑草処理（2～3葉期）の判定を受けた。本剤は非ホルモン系の接触型除草剤で1年生のイネ科雑草及び広葉雑草に作用力の大きい選択性を示す。

茎葉処理効果は極めて大きいが土壌処理効果は期待できない。効果の発現は比較的遅く、完全枯殺には2週間前後の日数を要する。

毒性：本剤の人畜に対する毒性はほとんど問題なく急性経口毒性は $LD_{50} = 2080 \text{ mg/kg}$ （マウス）で魚毒性も48時間TLM（コイ稚魚） $= 31.33 \text{ ppm}$ で漁貝類に対する毒性も極めて少ない。

使用方法：雑草発芽後2～3葉期に10アールあたり製品600～800gを70～100ℓの水にうすめ雑草の茎葉に充分かかるように全面散布する。

使用上の注意：①本剤は接触型選択性除草剤なので、使用にあたっては雑草の茎葉全体に均一に散布する。②土壌処理効果がないので雑草発生前に処理しないでください。③本剤には展着剤が入っていますので展着剤の使用はさけて下さい。

験そのものの実行には問題は少ないが、試験の性格上広い苗畑が必要なことと、林業苗畑では、3月（暖地で2月）に作業が始まることを考慮して、少なくとも1月中には試験の打ち合わせを完了するようにお願いしたい。

生育調節剤については、試験設計、試験材料の均一性が試験結果に大きく影響するため、事前に委託者側と受託者側で、充分試験の細部にわたって打ち合わせを行なうよう希望したい。

も第7巻第1号発刊でスタートを切ったが、今後とも相変らぬ愛読者各位のご支援を仰ぐ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和48年4月発行

第7巻第1号

¥90（送料50）

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

編 集 後 記

新緑の香りのただよう中で、新装なった当誌